（産業交通水道委員会資料）

令和８年２月19日
交　　通　　局

市バスの「前乗り後降り方式」の導入

1　導入経過

● 平成３１年３月、お客様のバス車内でのスムーズな動線の確保などを目的に、洛バスなどの観光系統 で順次導入

・平成３１年３月　100号系統、東山シャトルに導入 ・令和　２年３月　102号系統に導入 ・令和　３年３月　101、106、111号系統に導入

● 令和元年１１月、「市民生活との調和を最重要視した持続可能な観光都市」の実現に向けた具体的方策の一つとして、「前乗り後降り方式」の均一運賃系統への拡大を表明

● 令和２年１２月、コロナ禍の影響を受け、均一運賃系統への拡大を延期

● 令和３年４月、観光客が激減したことを受け、洛バスなどの観光系統の運行を全便休止

● コロナ禍後、観光利用の回復により、バス車内の混雑が再び顕在化

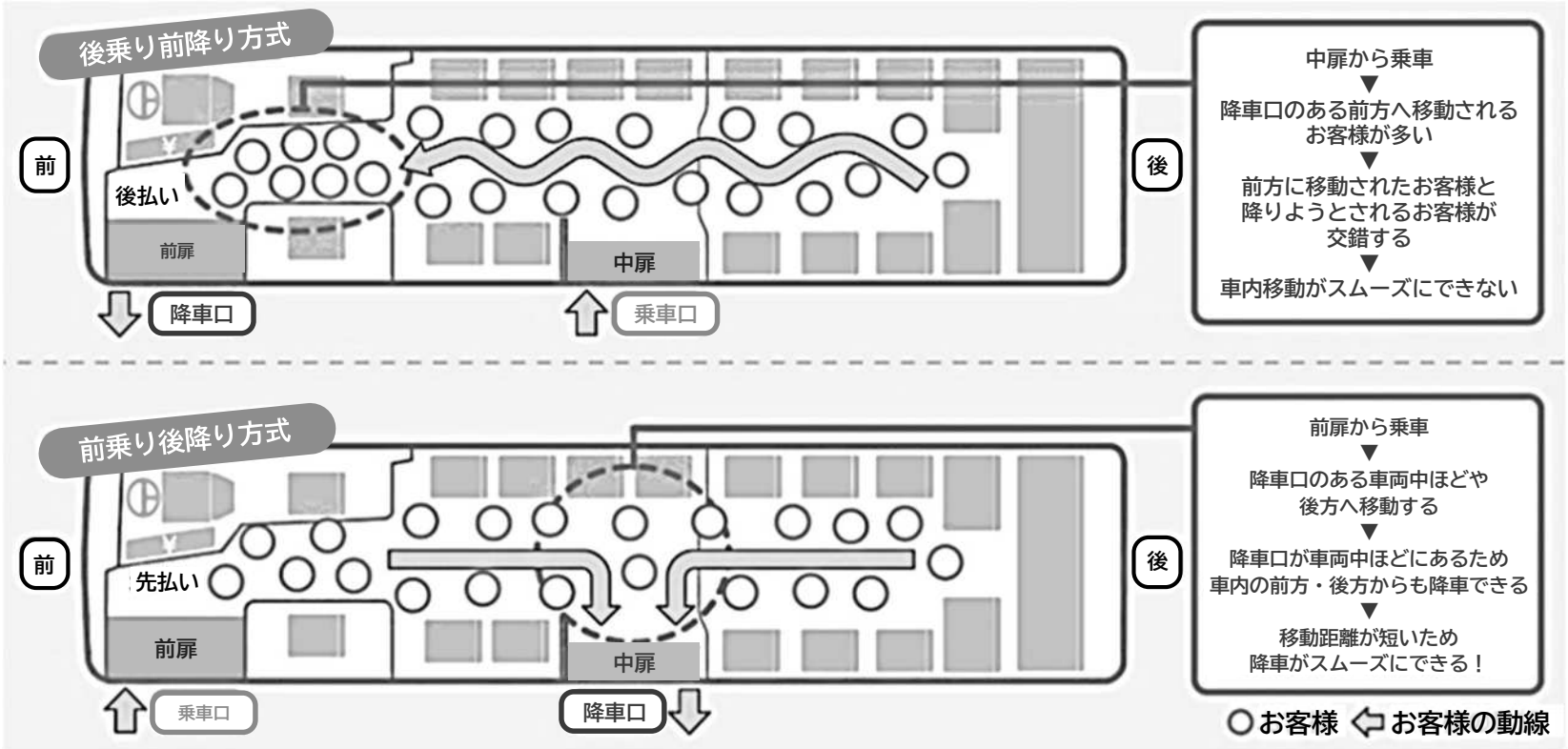
● 運転士不足により輸送力の強化が難しい中、
市バス車内の混雑対策に最も効果があると考えられる「前乗り後降り方式」を導入

2　導入効果

お客様のスムーズな降車が可能！

● 降車口が車両中ほどになるため、バス車内が混雑した状況であっても、スムーズに降車いただけます。

市バス車内の混雑の様子



市バス車内の動線のイメージ

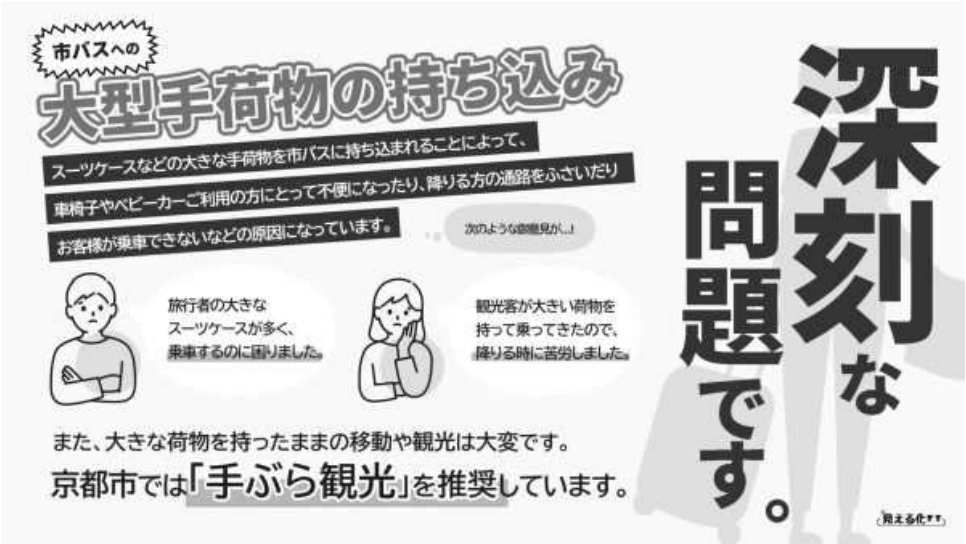
スムーズな運賃収受が可能

● 高額紙幣しかお持ちでない場合やＩＣカードエラーの場合など、お客様への対応が乗車前に可能となります。

大型手荷物の車内持込みへの対応検討

● 乗車時に手荷物を確認できることから、大型手荷物の車内持込みへの対応を検討したいと考えています。（具体的な対応方法等は今後検討します。）

大型手荷物の車内への持込みご遠慮を求める
「手ぶら観光」市バス車体PR看板



「手ぶら観光」を推奨する告知ポスター

３　導入に向けた取組

導入系統

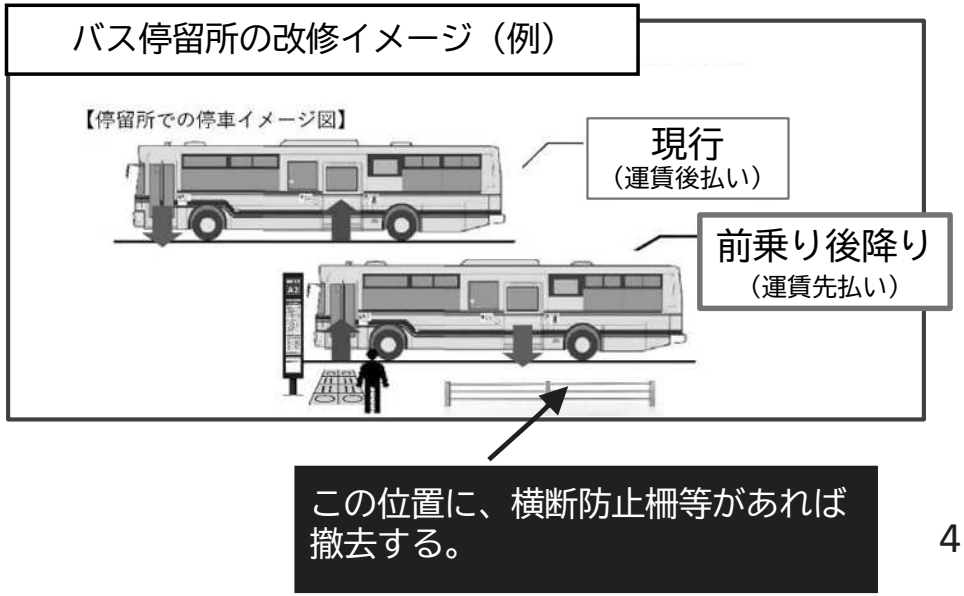
● 市バス全８４系統のうち、調整運賃系統を除く、均一運賃系統６２系統※に導入します。
※ うち観光特急バス（２系統）は導入済です。

取組内容

● バス停留所の改修
バスの乗車口（前扉）をお客様の乗車位置（点字ブロック）に合わせる必要があるため、現行より半車体分、停車位置が後ろになります。
これにより、新たに降車口（中扉）となる場所に横断防止柵や植栽、縁石などがある場合、これらの撤去又は改修を行います。また、バス停留所によっては、点字ブロックや標識柱の移設が必要となる場合も想定されます。

市バス停留所：全1，６４２か所
うち、均一運賃区間内にある停留所：１，２６０か所
うち、改修工事が必要な停留所　：　約５５０か所

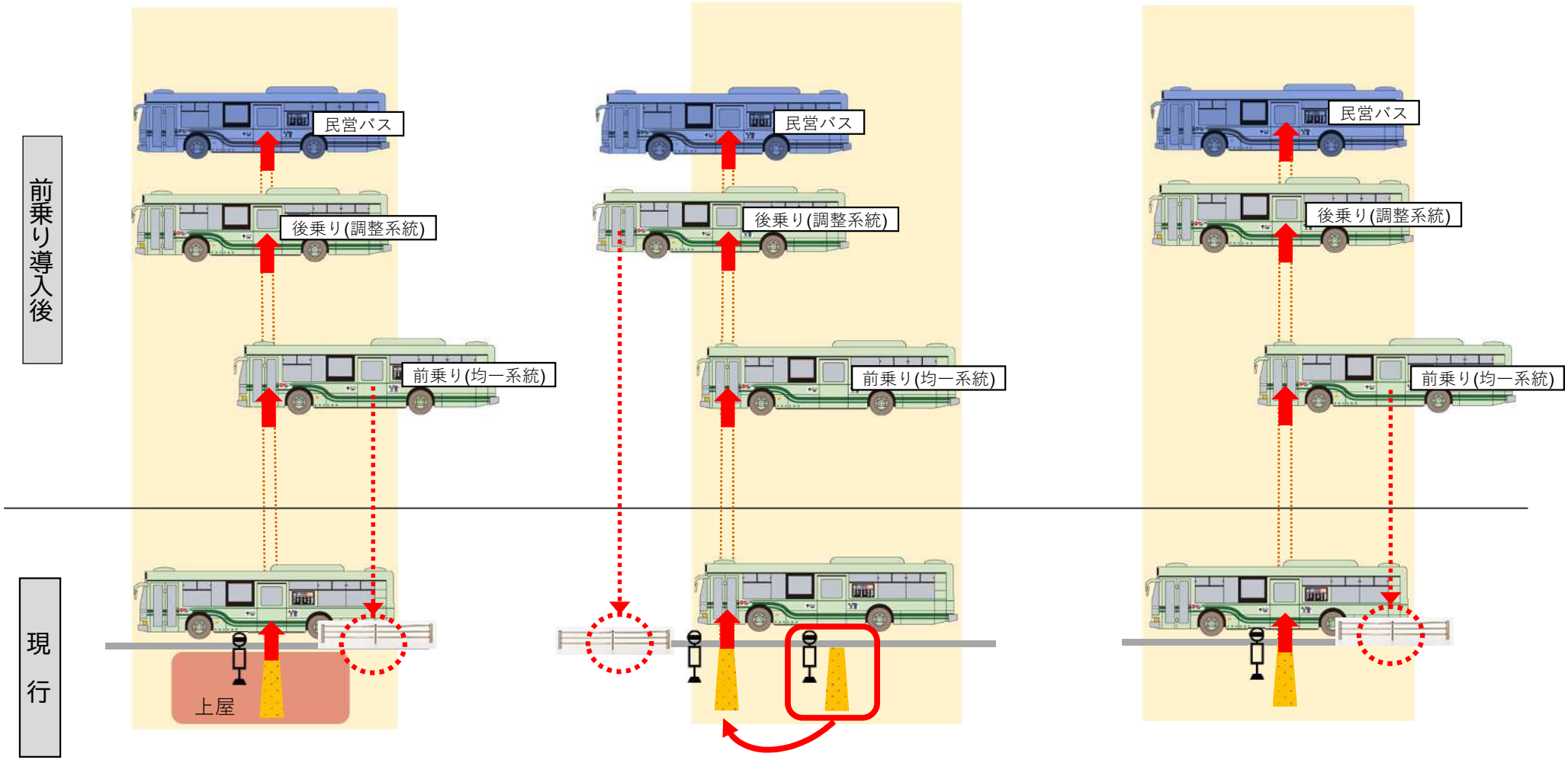
バス停留所の改修イメージ（例）



● 車両の改修
車内外の出入口表示、放送装置などの機器改修を行います。

停車位置の変更とバス停留所の改修イメージ

新たな降車口に横断防止柵や植栽等があれば撤去が必要となる。



上屋、点字ブロック及び標識柱は移設しない。

点字ブロック及び標識柱を移設する場合

点字ブロック及び標識柱は移設しない場合

上屋 “あり” の場合

上屋 “なし” の場合

４　スケジュール

- 令和８年度　　バス停留所の改修工事に伴う現地調査、測量・設計
- 令和９～１０年度　　バス停留所の改修工事に向けた実施設計
  車両の改修
- 令和１０年度～　　バス停留所の改修工事
- 令和１０年度末　　市バスの「前乗り後降り方式」の導入を目指します。

５　概算事業費

- 約２０億円

（内訳：バス停留所改修費用約１４億円、車両改修費用約６億円）

※ バス停留所の改修工事に向けた測量・設計業務の中で実施内容を精査し、
今後、総事業費を確定します。

※ 令和８年度予算　１.８億円（内、０.９億円を宿泊税充当）

現在は、令和６年６月に運行を開始した
観光特急バスのみに前乗り後降り方式を採用